

神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る

「鈴木商店記念館」第1回勉強会のご案内

金子直吉の書簡を題材に ～鈴木商店の実像に迫る～

第一次世界大戦の勃発を千載一遇の好機と捉えた鈴木商店は大正6(1917)年、貿易年商で三井物産を凌ぎ日本一の総合商社となりましたが、これに先立ち、大番頭・金子直吉はロンドン支店に向けて、「天下三分の宣誓書」と称される気迫あふれる書簡を送っています。

筆まめな金子はこのほかにも、公的・私的を問わず内外に膨大な数の書簡を発しており現在、「写し」を含めその一部が残されています。

この度、当記念館としては初の試みとして、これら書簡の中から鈴木商店の軌跡および当時の時代背景を読み取れるものを題材にして、その実像に迫る勉強会を実施します。第1回勉強会では、次のテーマ・書簡をとりあげます。

- ・東京ステーションホテルを立去るに臨んで(鈴木商店が破綻し、金子が定宿にしていた同ホテルを立去る際に詠んだ一句[俳句]を伝える書簡)
- ・柳田富士松の病状と死(金子と並ぶ鈴木の大柱石、柳田の病状と死を悼む金子の心境を伝える書簡)
- ・鈴木商店の再興をかけた羽幌炭砒(鈴木破綻後に金子が挑んだ、起死回生の炭鉱開発にまつわる書簡)

- 日時……平成30年8月25日(土) 14:00～15:30
- 場所……神戸ポートオアシス(神戸市中央区新港町5番2号)
- 定員……60人(予定)
- お申し込み……受付開始時期 未定
- 講師……金子 直三氏

<金子直三氏のプロフィール>



- ・2002年、三菱信託銀行(現・三菱UFJ信託銀行)退職
- ・2015年、鈴木商店記念館 編集委員
- ・金子直吉の曾姪孫(直吉の実弟・楠馬の曾孫)
- ・祖父・金子三次郎は楠馬の女婿で、鈴木商店、鈴木商店傘下の大里製粉所、帝国炭業(若松出張所長、本社販売課長)、沖見初炭鉱(専務取締役)、鈴木商店破綻後の羽幌炭砒(専務取締役)、樺太ツンドラ工業(専務取締役)等に勤務

《主催:神戸市みなと総局計画部港湾計画課》

